

令和4年度 第1回いじめ問題対策委員会 議事録

- 1 開催日時 令和4年4月14日(木)
- 2 開催場所 三島市役所中央町別館 3階第3会議室
- 3 出席者氏名 委員 鎌塚 優子 委員長
三浦 興一郎 副委員長
事務局 中村 雅志 学校教育課長
江越 弘道 学校教育課副参事
三田 圭太 学校教育課指導主事
- 4 会議の公開・非公開 公開
- 5 傍聴人の人数 0人
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委員長・副委員長選出
 - (3) 第1号議案 令和4年度三島市いじめ問題対策委員会活動計画について
 - (4) 第2号議案 令和3年度いじめの調査結果について
 - (5) 第3号議案 各校のいじめ防止等の基本方針について
 - (6) 閉会
- 7 議事
 - (1) 開会
中村課長が挨拶した。
 - (2) 委員長・副委員長選出
事務局より委員長・副委員長の選出を行い、承認を得た。
 - (3) 第1号議案 令和4年度三島市いじめ問題対策委員会活動計画
事務局より、活動計画の説明があった。
 - (4) 第2号議案 令和3年度いじめの調査結果について
事務局より、令和3年度いじめの調査結果を報告した。

(委員)

いじめの発見のきっかけについて、アンケートが有効という話が出ていたが、何か工夫がされているのか。

(事務局)

アンケートの回数を学校の実情に応じて見直したり、1人1台端末の導入に合わせて、端末を用いてアンケートを実施したりする学校があった。

(委員)

ネットを使って即時に情報を集められることや、情報源の秘匿にもつながるのでとても良いと思う。

(事務局)

教室でのアンケートだと、どうしても周りの目が気になって、書けないという児童生徒もいたと思う。1人1台端末を導入したことで、家から落ち着いた状態でアンケートに答えることができ、児童生徒から相談しやすい雰囲気ができたのではないかと考えている。

(委員)

1人1台端末を用いることで、アンケート結果がすべて1か所に集まり、結果もすぐに出るため、すぐに情報が確認でき、対応しやすくなると思う。報告のし忘れなども防げると思う。

(委員)

アンケート以外でも1人1台端末があることで、すぐにSOSを出せるようになるのではないかと。

(事務局)

1人1台端末から、学校に直接SOSを発信できる相談投稿フォームを用意している。投稿内容は学校の代表メールに届き、すぐに見られるようになっている。

(委員)

たくさんの情報が集まってくるということは、それだけデータの管理についても十分に注意することがあるのではないかと。

(事務局)

データの管理については、特に気をつけるように情報発信している。

(委員)

アンケートに書かれている内容等は個人情報となるので、ぜひこれからも気をつけてもらいたい。

(委員)

いじめ問題も複雑化し、犯罪に近いような重大な事案も県外などでは確認されているようだが、その当事者の恐怖感は計り知れないものがあるので、ICTを活用してSOSを出しやすい環境を整えることはすごく重要なことだと思う。

- (5) 第3号議案 各校のいじめ防止等の基本方針について
事務局より、各校のいじめ防止等の基本方針について報告した。

(委員)

小学校の資料には、PTA会長が登場するが、具体的にどういう役割を果たすのか。

(事務局)

学校毎に少し状況は変わるが、学校から情報提供し、保護者からの問い合わせに適宜対応してもらうという例がある。その他、保護者からの連絡を受ける窓口になってもらったり、保護者会を開く際に同席してもらったりするなど、役割は学校の事情に応じて多岐にわたっている。

(委員)

P T A会長は影響力や発言力が大きな人になると思うので、P T A会長が入ること、より問題が大きくなることはないか。

(事務局)

P T A会長が入ること、保護者の立場も学校の立場も両方分かった上で間に入って対応してもらえることが多い。

(事務局)

保護者の中には、いきなり学校に連絡することができない人もいる。P T A会長も保護者なので、相談しやすいという保護者もあり、P T A会長を経由して学校に情報が入ることもある。その他にも学校のいじめに対する取組に対して、保護者という視点から助言したり、家庭へ発信したりする役割も担っている。

(委員)

インターネット上のいじめの事実確認はどのように行っているのか。

(事務局)

S N S上のやり取り等については、画面を実際に確認させてもらい、それをもとに加害とされる児童生徒に事実確認を行うこともある。しかしながら、ネット上の書き込み等については、匿名による投稿なども多く、なかなか特定が難しいことも多い。

(委員)

あくまでデータなので、加工もある程度可能であり、切り取る場面によってとらえ方もかなり変わる部分があるため、それだけをもって事実とするのは難しく、慎重に考える必要がある。

(事務局)

そういう点からも、起きてからの指導よりも、起こる前の情報モラル教育が大事だと考えている。各校での取組を引き続き推進し、未然防止に努めたい。

(委員)

各校のいじめに関する年間計画については、だいたい同じか。

(事務局)

アンケートの回数なども含めて、計画は学校の実態に合わせて変えている。

(委員)

いじめ問題に関して、よく「初動が悪くなかった」と言われるが、初動が本当にそこだったのかは、後で分かることが多い。発生した瞬間にはいろいろな事が同時進行で起こっており、後付けで初動と言われることが多い。実際にはいろいろな流れがあるため、どうすれば良かったかは、初動にこだわらず、時間をかけて分析することが大切である。

8 事務連絡

「三島市生徒指導主任・主事研修会及び第1回三島市不登校児等担当者会」で例年、いじめ問題対策委員の紹介を行っているが、日程の都合から、今年度については事務局の方で紹介を行うことを報告した。